

東北ブロック認知症 グループホーム 2014 山形大会

開催要項

- 期 日：平成 26 年 11 月 13 日（木）14 日（金）
- 会 場：山形国際ホテル
- 主 催：山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会
公益社団法人日本認知症グループホーム協会 山形県支部
東北ブロック認知症グループホーム連合会

.....: 大会趣旨 :.....

介護保険制度が発足してから既に14年。制度そのものは一定の成果を出していますが、その一方で新たな問題も発生してきています。

近年、認知症の方の地域における見守りの問題等議論されていますが、足下を見てみますと、そういった政策以前の問題を考えなければならなくなってきています。

例えば、超高齢化社会下で且つ厳しい少子化の影響により、増加した要介護高齢者を看るだけの介護職員の確保が難しくなっています。今後国の景気回復政策が成果をあげれば、他の分野に労働者を取られてしまうため、医療・介護分野の職員の不足は更に深刻となり、地域社会の崩壊を招くことが既に予測されています。新しい対策以前の問題として現状の維持さえもままならなくなりつつあるのです。しかし、こういった状況の中でも地域における認知症の方の支援についてグループホームは大きな役割を果たしていかなければなりません。

職員不足の問題の解決は容易ではありません。外国人労働者を介護の分野で活用しようとしても、介護の分野では日本人を雇うより2倍程度のお金がかかる以上、その方策は経営上現実的ではありません。このような状況から、今後政府の政策により今まで家庭にいた専業主婦だった方も、介護の分野で働くだけでなく社会を維持するために様々な分野で働かざるを得なくなるでしょう。その結果、共働きの家庭が増加してくると要介護高齢者の自宅での介護は現実的ではなくなっていくのです。

現在、高齢者介護の分野は大きな曲がり角に来ているのです。このような状況の中、家庭ではない「在宅」であるグループホームは地域の中でこういった役割が要求されるのでしょうか？

介護施設や医療施設、ソーシャルワーカー等の社会資源は、量・質共に地域ごとに異なります。社会の少子化の影響や予算等の構成要素が地域ごとに異なるため、各々の地域にあった社会援護のあり方を考えていかざるを得ません。その為、今後グループホームに対して地域から要求されることも地域ごとに大きく異なっていくことが予測されます。

既に、全国一律に同じ政策・方策を各地域で提供するという従来の方法では、福祉が成立しなくなる時代に突入しているのです。今後、そういった方法では地域社会を支えることはできないでしょう。

今後は各地域において、各地域の社会資源の状況に合わせた福祉政策が実施されていくことになります。その結果、地域ごとに介護施設に要求される事業内容が異なっていくことになるでしょう。ある地域において良いとされる概念が、別の地域では良くないとされる事も想定されます。

そういう状況になったとしても、異なる主張や活動を、お互いに尊重し、認め合い、支え合い、協力し合える、そういった未来を創っていかねばならないのではないのでしょうか。

本大会のテーマ『私たちの目指す未来』は、地域間でお互いの活動を尊重しあい、認めあえるように、東北各県、各地域の様々な立場の人々が、地域に応じた介護の未来のあるべき姿を考えていく事を趣旨といたしました。

今後、各地域での介護の取り組みが異なってきたときに、主張を同じくする者が小さなグループを作っていくことになるでしょう。更に、異なる主張ごとに業界団体が立ち上がる時代も来るでしょう。主張が異なる団体同士でも、情報を共有しながら、異なる活動を認め合い、お互いに参考にし、必要に応じて連携しあえる、そのことが地域密着型の介護には必要なのです。

グループホームは多様な活動ができてこそ光り輝きます。そして多様な活動の為には相互理解が欠かせません。地域貢献や看取りなど多くの活動を皆で報告し合い、共有していこうではありませんか。

本大会が私達介護に関わるもの全てが、それぞれの所属する地域の目指す未来の介護を創っていくための一助となるよう祈っています。

..... **大会テーマ**

「私たちの目指す未来」

..... **期日・会場**

平成26年11月13日(木)・14日(金)

山形国際ホテル(山形市香澄町3-4-5)

電話:023-633-1313



.....**大会参加費**.....

参加費 6,000 円

懇親会 5,000 円

.....**主 催**.....

山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会
公益社団法人日本認知症グループホーム協会 山形県支部
東北ブロック認知症グループホーム連合会

.....**後 援（予 定）**.....

厚生労働省・山形県・山形市・全国グループホーム団体連合会・（特）福島県認知症グループホーム協議会・（特）宮城県認知症グループホーム協議会・秋田県認知症グループホーム連絡協議会・八戸地区認知症高齢者グループホーム協議会・社会福祉法人山形県社会福祉協議会・社会福祉法人山形市社会福祉協議会・一般社団法人山形県老人クラブ連合会・一般社団法人山形県老人福祉施設協議会・山形県老人保健施設協会・一般社団法人山形市医師会・山形県医師会・朝日新聞山形総局・産経新聞社山形支局・毎日新聞山形支局・河北新報社・山形新聞・山形放送・米澤新聞社・読売新聞山形支局・荘内日報社・さくらんぼテレビ・テレビユー山形・山形テレビ

.....**対象及び参加予定数**.....

対 象：東北地区のグループホーム事業所及びその関係者、
老人介護に関わっている方及び関係諸機関

参加予定数：300名（見込み）

分科会Ⅰ 『地域貢献』

地域密着型サービスであるグループホームは、地域との関わりという点において、以前から重要なテーマであることはみなさんご承知のことと思います。グループホームは、地域の中でどのような役割を担っているのでしょうか？ 今後、各地域の状況や社会資源に合わせ、益々地域との関わりが求められることになると思われます。

テーマである「地域貢献」については、グループホームの地域への貢献という意味合いだけでなく、グループホームと地域との交流・関わり・つながりという観点で幅広く演題を募集しております。例をあげると、下記のような内容が考えられます。

- ・近所の方の畑を借り、一緒に耕作、収穫をし、近隣住民と交流を図っている。
- ・東日本大震災を機に、地域との防災協力を結び、地域との連携を強化することができた。
- ・最近、認知症の方の行方不明者が増加しており、地域の方に入居者の方の写真や特徴を知らせ、万が一の時に備え協力体制を構築している。
- ・毎月、近隣の幼稚園の子供たちとの交流を図り、双方で楽しい時間を過ごし、有意義な行事となっている。
- ・年に数回、事業所の方で介護や認知症についての勉強会を実施し、地域との交流を強化したり、介護についての相談を受けるようになった。
- ・事業所の方では、より一層地域との関わりを望みアプローチしているが、地域の方でなかなか受け入れてくれない。

地域とのつながりという広い観点で、皆様の貴重な体験や意見を発表する分科会を目指します。

分科会Ⅱ 『看取りをめぐる』

かつての日本は 2 世代・3 世代が同居する大家族で、高齢者の大半が、子供や孫に見守られながら、老衰などにより自宅で生を終えました。人にとって死とは、すぐに身近に存在したものでありました。ところが、厚生労働省「人口動態統計年報」を見ると、昭和51年を境に自宅で死亡する人と医療機関で死亡する人の割合が逆転しています。

その後、介護保険制度が始まり、福祉施設が加わると、自宅で死亡する人はさらに減少しています。私たちは、高齢期の様々な方々と向き合ってサービスを提供していますが、人間の生命というものを考えた時、私たちはいつかそれらの方々とお別れをしなければならない可能性が高いわけです。そうであるなら、私たちの介護サービスとは、「そこで暮らし、やがてそこで最期のときを迎えるまでに、いかにその人が生命を持つ個人として尊重され、豊かな暮らしを送ることが出来るか」ということを命題とすべきで、それがQOLからQODへの視点転換であり、暮らしの場であるグループホームにおいても、そのことが重要であり、当然その延長線上にある「看取り介護」を考える必要があります。グループホームでの「看取り介護加算」は医療連携加算を算定している施設にしか認められず、医療連携加算の算定要件には、外部の訪問看護ステーションとの連携を含めて、何らかの形で看護師との24時間連携体制や、一定の時間の看護サービスが義務付けられています。

しかし、グループホームでの看取り介護を行うにあたり、医療連携体制や看護体制が十分に整えら

れているかという問題があります。

利用している家族が、グループホームでの最期を希望されていても、主治医が「NO」と言えば、看取ることができないのが現実です。

施設においては、看取りを積極的に受入可能な施設や、受入できない施設もあると思います。本大会を通じて、施設関係者の一人ひとりが、いま一度看取りを見つめ直すきっかけとなれば幸いです。

分科会Ⅲ『ポスターセッション』

ポスターセッションでは、決まったテーマを設けず自由に発表いただける分科会とします。

発表カテゴリーは参考として、以下の内容などが考えられます。

- 1.医療連携
- 2.ケア（①口腔ケア、②排泄ケア、③栄養ケア、④ロボットによるケア）
- 3.BADL 支援（身体機能向上訓練）
- 4.IADL 支援
- 5.アクティビティ
- 6.ケアマネジメント
- 7.家族支援
- 8.退居支援
- 9.人材確保、離職防止
- 10.研修
- 11.運営推進会議
- 12.外部評価
- 13.環境
- 14.身体拘束
- 15.事故防止
- 16.災害対策
- 17.その他

.....: 大会スケジュール（予定） :.....

◇1日目【平成26年11月13日(木)】

12:00 開場・受付

12:30 開会式 (40分)

13:10 記念講演Ⅰ (60分)

「来年度以降のグループホームのあり方について」(仮題)

講師 未定 (厚生労働省老健局) (依頼中)

14:20 記念講演Ⅱ (90分)

「ここまでわかったBPSD」(仮題)

講師 東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長 栗田主一先生

16:00 記念講演Ⅲ (90分)

「看取りについて」(仮題)

講師 山形県医師会 折居内科医院 院長 折居和夫先生

18:00 懇親会 (90分)

◇2日目【平成26年11月14日(金)】

09:00 開場・受付

09:30 分科会 (120分)

分科会Ⅰ「地域貢献」

分科会Ⅱ「看取りをめぐる」

分科会Ⅲ「ポスターセッション」

11:40 閉会式 (20分)

..... **大会参加お申込・お問い合わせ**

近畿日本ツーリスト東北（株）山形支店

〒990-0039 山形県山形市香澄町 2-2-39

tel.023-632-3211 fax.023-625-7351

東北ブロック認知症グループホーム 2014 山形大会 大会事務局

社会福祉法人悠愛会 特別養護老人ホームあこがれ

〒994-0054 山形県天童市大字荒谷 1973-1345

tel.023-652-2711 fax.023-652-2712